

領域6合同オンラインインフォーマルミーティング 議事録

2021/9/21(火) オンライン開催18:00～19:00

記録者：野村 温

参加者：乾，北野，堤，三澤，杉本、野村，他

0. 全体説明 (堤)

Zoomの使用上の注意と意思表示の仕方に関する説明

1. 委員について (堤)

・領域代表・副代表について

- ・ 現領域代表 (2021年4月～2022年3月)
乾 雅祝 (液体金属, 広島大院先進理工)
- ・ 現領域副代表 (2021年10月～2022年3月)
北野 晴久 (超伝導・密度派, 青学大理工)
- ・ 次期領域代表候補 (2022年4月～2023年3月)
(今回の承認事項)
北野 晴久 (超伝導・密度派, 青学大理工)
- ・ 次期領域副代表候補 (2022年4月～2023年3月)
(今回の承認事項)
枝川 圭一 (準結晶, 東大生研)

特に異論はなく承認

・運営委員について

- ・ 現領域運営委員 (2020年10月～2021年9月)
三澤 賢明 (液体金属, 岡山大院自然), 堤 康雅 (超低温, 関西学院大)
- ・ 現領域運営委員 (2021年4月～2022年3月)
杉本 貴則 (準結晶, 東理大応物), 野村 温 (超伝導・密度波, 東理大理)
- ・ 次期領域運営委員 (2021年10月～2022年9月)
(前回のインフォーマルミーティングにて承認済み)
古石 貴裕 (液体金属, 福井大工), 石黒 亮輔 (超低温, 日本女子大理)
- ・ 次々期領域運営委員候補 (2022年4月～2023年3月)
(今回の承認事項)
廣戸 孝信 (準結晶, 物材機構), 延兼 啓純 (超伝導・密度波, 北大理)

特に異論はなく承認

2. 学生優秀発表賞の結果報告（堤）

- ・ 第76回年次大会（2021年）受賞者
 - 液体金属分野：福島 省吾（熊大院自然）
 - 準結晶分野：井上 天（北大院理）
 - 超低温分野：宇佐美 潤（東大低セ）
 - 超伝導・密度波分野：前垣内 舜（東工大理）
 - 超伝導・密度波分野：太田 竣（東理大理）
- ・ 今回の学生優秀発表賞について、審査等の協力への謝意が述べられた。

3. 領域6学生優秀発表賞に関する規約について意見の共有と議論（杉本）

- ・ 領域6では、講演申し込み時の「学生優秀発表賞に応募する/しない」の選択肢に関わらず、一般講演で口頭発表する学生全員を審査対象としている。このことに関して、以下のような意見が寄せられていることが紹介された。
 - ・ 何らかの意思・事情に基づいて「応募しない」を選んだ講演までを強制的に審査対象として良いのか（発表賞審査を受けることを自主的に辞退する権利はないのか）
 - ・ 「応募する」を選ばなかった講演については、発表者が学生であるかどうか1件1件手作業で（研究室HPを調べるなど）確認する必要が生じ、運営委員に多大な労力がかかってしまう
 - ・ 上記の下線部分は領域6のHPには記載されているが、現在の実施要綱中に明文化されていないため、講演者のみならず運営委員も誤認識をしたまま審査を進めてしまう可能性が常にあり、混乱を招く恐れがある
- ・ 木村薫先生（2015年度領域代表、東大新領域）より以下のような経緯の説明、意見があった。
 - ・ 受賞人数が審査対象者の10%程度とされているので、1人の受賞者を出すには審査対象者が10人程度必要であるが、分野によっては審査対象者が10人よりも少ない時がある。そこで、審査対象者を多くするために、講演申し込み時の「学生優秀発表賞に応募する/しない」の選択肢に関わらず、一般講演で口頭発表する学生全員を審査対象とするようになった。
 - ・ また、実施要綱に「領域6における過去の発表歴は考慮しない」と記載された理由も、審査対象者を多くためである。
 - ・ 領域6のHPでの記載と、実施要項での記載が異なっているのは良くなく、整合させたほうが良い。
- ・ 登壇者が学生かどうかを運営委員が調べなければならないことに関して、乾代表

から物理学会事務局に、登壇者が学生かどうかの情報を提供してもらえないか、問い合わせさせていただくことになった。

- 2017～18年に液体金属分野の運営委員だった熊大・高良先生から「2017～18年の液体金属では審査対象が4人程度で少ないので、できる限り審査対象を多くしたいということで、学生賞についての規約が作られた。確か、審査水準については、受賞者ゼロも認めることで担保していたかと思う。講演申し込み時の「学生優秀発表賞に応募しない」の選択した学生についても、なるべく良い発表をしてほしい、また、業績に書いてもらいたいということで、全学生を審査対象とすることになったと記憶している。」とコメントがあった。インフォーマルミーティング後、高良先生から運営委員にこの件に関して資料を受け取った。
- 枝川先生から、「すべての学生を審査対象としているにもかかわらず、講演申し込み時の「学生優秀発表賞に応募する/しない」の選択を学生にさせるのには違和感がある。」とコメントがあった。
- 乾代表より今後の方針が述べられた。今回の秋季大会、次回の年次大会でも、講演申し込み時の「学生優秀発表賞に応募する/しない」の選択に関わらず、すべての学生を審査対象として学生発表優秀賞を行う。この件については、今後、分野ごとにメーリングリストなどで意見をまとめる。
- 野村から「学生発表優秀賞の目的は何か？」という質問があった。それに対し、木村薫先生（2015年度領域代表、東大新領域）より、「もともと日本物理学会は他の学会よりも学生賞などの賞が少なかったため、賞が作られた。日本物理学会の学生会員の業績を増やすため。」と回答があった。

3. オンライン領域会議(5/27)報告 (乾)

- 2021年秋季大会 招待・企画講演、シンポジウム講演の採択結果の報告

【全体】

招待講招待講演: 10 件 (内, 物性 7 件) 採択

企画講演: 9 件 (内, 物性 0 件) 採択

チュートリアル: 5 件 (内, 物性 5 件) 採択

米沢賞受賞記念講演: 3 件 (内, 物性 1 件) 採択

シンポジウム (一般) : 15 件 (内, 物性 9 件) 採択

シンポジウム (共催) : 4 件 (内, 物性 3 件) 採択

- ・シンポジウム企画について以下の注意事項が述べられた
 - 内容説明が十分な提案書作成
 - 締切後の提案は原則認められない（運営委員に早めに知らせる）
 - 非会員を招待する必要性，理由を追記．非会員登壇者に物理学会へ入会の勧誘
 - 共催シンポジウムの活用

- 「シンポジウム講演の位置付け」では、ある一つのテーマに沿って、そのテーマを代表する研究者が様々な角度から一般講演とは違った時間枠で講演する。

- 「内容説明」の文章では、
 - テーマが何かを明確に読み取れるように説明する．
 - 全ての講演者について，講演内容とテーマとの関係を説明する．
 - 「主題名」，各講演者の「講演題目」もテーマを意識した名称にする。

- 所属重複規制について理解する
- 合同領域は事前連絡，確認．領域会議でも追加可能
- 運営委員，代表は提案書をチェックする

・大会アンケートの結果報告
オンライン開催は概ね受け入れられている。ハイブリッドを望む声もある。

- ・学会発表英語化に関する理事会提案について報告
 - 領域委員会の意見を取り入れた2020年12月12日理事会提案
 - 1) 留学生や外国人研究者の参加者への配慮
 - 2) オンライン会議での海外からの参加者の可能性を広げる
 - 3) 学生への教育などの観点から，
 - ・物理学会としては学会発表スライドの英語化を推奨する
 - ・将来的には概要集を英語で書くことも推奨する

- 領域6 としての回答 (2021/03/31 最終案)

理事会提案の、“日本語によるスライド・概要の英語化を推奨する”、との表現では日本語による研究発表を制限しかねない問題がある。日本語による研究発表を継続することにも意義があることを軽視するべきではない。また、概要については、紙媒体の配布が行われない現状では、英文化された概要を付加しても大きな支障とはならないので、将来の英語化を諮るのではなく、英文概要を付加することをいま認めれば良い。これらの観点から、以下の表現に変更することを提案する。

- ・学会発表のスライドには、日本語による記述を理解できない参加者への配慮をすることを推奨するが、発表言語を英語にすることを強制するものではない。

- ・概要が日本語により記述されている場合には、英語による同ページ数の概要を付加しても構わない。

- オンライン領域会議(5/27)での結論

留学生や外国人参加者への配慮のための英語化に協力することには賛同は得られたものの、各領域からは以下のような意見が上がり、本会の結論としては、理事会提案の文章では領域委員会の賛成は得られず、秋以降も継続審議ということとなった。

- ・協力レベルということであれば反対ではないが、領域ごとに事情が異なるので、ある程度は領域の裁量に任せてほしい。

- ・英語化の目的が「留学生や外国人研究者への配慮」であることは理解できるが、「学生への教育」は理解できない。

- ・「推奨する」という文言は、実質強要しているのと同じなので表現を変更してほしい。英語化を推し進めていくという趣旨の文章の場合は賛同できない。

- ・領域内で賛成の意見は少なくないものの、反対する方は強い意見を持っている。

・ 2021年秋季大会のポスターセッションについて

過去2回のオンライン形式（会期中のポスター掲示とコメント機能での質疑応答）に加えて、Zoomのブレイクアウトルームなどを用いたリアルタイムの質疑応答が可能となる方向で調整している。

4. 一般講演数の推移・概要提出率について (堤)

- 講演数は前回の年次大会で少なかったが、今回は以前の水準まで回復した。
- 近年、減少傾向にある。
- 春が秋よりも少ない傾向にある。
- 概要提出率は学会全体の平均くらい。

5. 国際会議などのお知らせ

- The 18th International Conference on Liquid and Amorphous metals (LAM-18)のお知らせ 乾 雅祝 (広島大院先進理工)
- 29th International Conference on LOW TEMPERATURE PHYSICS (LT29)のお知らせ 坪田 誠 (阪市大複合先端研)
- International Conference on Ultra Low Temperature Physics (ULT2022)のお知らせ 白濱 圭也 (慶應大院理工)

6. 運営委員の挨拶

- 堤先生、三澤先生から退任の挨拶があった。